

令和2年度学校評価結果報告書

名古屋芸術大学保育専門学校

1 自己評価

(評価…A：よくできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった)

評価基準項目	評価	評価内容
基準1 教育理念・目的・育成 人材像等	B	外部委員に意見を求めたり、法改正や教育の動向等を踏まえ、時代の流れに対応できるように、毎年、教師会で協議し、めざす教育を決定している。 学校の特色は4つ（幼保と連携した学び、文科省・厚労省の指定校、少人数・担任制、学校独自科目の充実）を上げることができる。さらに、芸大への編入、職業実践専門課程の認可を上げることができる。 学校の将来構想としては、現在、学生募集を停止中である。令和3年度中に方向性を決定する。
基準2 学校運営	B	事業計画は、実践力と人間力を備えた幼稚園教諭・保育士の養成を目的とし、最終的には就職を目標とする事業計画を策定し、それに沿って運営している。学校全体で協議すべき事項は、校務分掌の担当者が立案し、企画委員会で検討したことを教師会で審議し、校長の了解のもと経営本部に提出している。人事・賃金での処遇に関する制度、研修に関わる規定は明確に整備されている。人事考課制度、昇進・昇格制度の整備はあまり進んでいない。明文化されていないが、意思決定の権限等は共通認識されている。情報システム化による業務の効率化は、各教員にPCがあり、ソフト等も日常業務には差し支えない状態である。共通ファイルが情報の共有化に有効となっている。
基準3 教育活動	B	本学のめざす教育実現のため教育課程を編成している。育成の到達レベルを定め、進級会議、卒業判定会議で基準を適用している。また、職員間で具体的な到達レベルの共通認識を持つようにしている。カリキュラムは幼稚園教員養成課程、保育士養成課程の基準に基づき編成している。内容は、教員養成校再指定申請、保育士養成指定申請時にチェックされている。また、年2回の教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会等において意見を聞き検討している。各科目は、シラバスを作成し、適切な位置付けをしている。教員の資格審査については、教員養成校再指定申請、指導調査の審査対象となっているので、基準は明確である。成績評価、単位認定等は学則等で定めており、それに従い運営している。
基準4 教育成果	B	就職に関する指導として、基礎演習での指導、担任による個別指導等を実施した。就職希望者に対しては100%の就職率であった。就職成果とその推移に関する情報については明確に把握している。退学防止に向け、学生支援会議を開催し、教員間の情報交換を密にし、早期指導支援、少人数指導で対応して来た。
基準5 学生支援	B	就職・進学指導の体制は、入学から卒業まで就職担当者を中心に各担任が連携をとって指導している。基礎演習の時間等に、就職マニュアル活用し、就職オリエンテーションの実施、また、愛知県私立幼稚園連盟による説明会や就職内定者による就職懇談会を実施している。第二部については、担任が個別相談日を設定するなどして個別指導の充実を図っている。学生相談に関する体制は、年16回原則火曜日の午後4時半から6時までの時間に、外部の専門の心理カウンセラーによる学生相談室を開設している。また、クラス担任が学生相談には随時あたっている。学生の経済的側面に対する支援は、日本学生支援機構奨学金、保育士修学資金以外に、本校独自の入学奨励金、学業成績優秀者給付奨学金、学費減免の制度がある。また、本年度から新たに高等教育に対する国からの新修学支援制度も始まった。常に奨学金の情報開示を行い、奨学金全般の申請業務を担当する者を配置している。希望者が増加傾向にあり、今後、継続していく必要がある。学生の健康管理の体制は、年に一度、4月に健康診断を実施している。この他実習前の検便を実施している。医師・看護師は学校には常駐していないが、学生の休憩する部屋の確保はしている。ボランティア活動に対しては、チラシを掲示するなど奨励はしているが、あまり行われていない。学生寮等の支援は、安心できる賃貸物件や提携する学生寮などを紹介している。保護者とは必要に応じて担任が連絡を取っている。学生の生活環境への支援は、情報提供支援に留まっている。卒業生への支援体制は、同窓会が組織されているが、活発な活動はない。再学習などのフォローアップ体制はない。
基準6		施設・設備は、特別教室、体育館、レッスン室等があり充実している。幼稚園・保

教育環境	B	育所が敷地内にあり、保育を学習するのにふさわしい環境である。メンテナンス体制は法に準じて実施している。施設・設備の更新に関しては必要度に応じて実施している。学外実習はプレ実習、教育実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ・Ⅱ、施設実習を現場と連携をとりながら実施している。実習後に実習意見交換会、評価票をもとにした個別面談、学生の報告会等を行い、教育の成果を確認している。海外研修、インターンシップは実施していない。防災体制は、マニュアルに従って行うようにしている。大地震への対策は、災害備品点検にとどまっている。ピアノに対しては固定対策は施している。実習時等の事故防止は、事前指導で事故防止教育を実施している。令和2年度は避難訓練、初期消火訓練、防災教育等を2回実施した。災害に備えた学生保険等については必要最低限の保障はしている。
基準7 学生募集と受け入れ	C	令和2年度から学生募集を停止したため、新入生の受け入れは全くしていない。
基準8 財務	C	令和3年度末で閉校予定となっており、令和2年度から学生募集を停止しているので、収入減となっている。主要な財務数値に関する情報と、その推移については正確に把握しているが、本校の財務基盤は人件費比率が高く、安定した状態であるとは言えない。国の補助金がないため、学生数の確保が重要であり、必要最小限で予算・収支計画を立てている。会計監査は法に従って毎回実施している。監査を受ける側、実施する側の責任体制、実施スケジュールも妥当である。財務情報公開の体制は、法人組織全体の財務情報をHPで公開している。
基準9 法令等の遵守	B	法令、設置基準等の遵守については、教師会や機会をとらえて啓発活動を行っており、概ね適正に遵守している。個人情報に関しては、取扱指針に基づき適正な取り扱いに心がけ、啓発活動も随時実施している。自己点検・自己評価は平成21年度より実施し、継続して問題点の改善に努めている。自己点検・自己評価の公開は、平成28年度よりHPで行っている。
基準10 社会貢献	C	隣接する幼稚園・幼児園との連携では、授業で作成した教材等を用いて、園児との交流会を毎年計画しているが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施できなかった。施設・設備の開放については、要請があればできる限り受け入れる体制が整っている。また、例年実施している中学生、高校生等の学校見学・体験については、本年度は実施できなかった。

2 学校関係者評価

評価委員：水越省三・武石協子・大畑領治・菅沼友美

令和2年度 自己点検・評価結果に対する学校関係者による意見と評価

(評価…A：よくできた B：できた C：あまりできていない D：できていない)

基準1 教育理念・目的・育人材像等	B	・教育理念・目的・育人材等ははっきりと示されている。
基準2 学校運営	B	・運営組織は確立されているようなので、それをしっかり機能させるように。 ・情報システム化による業務改善はどこでも課題となっている。さらに効率化を進めていきたい。
基準3 教育活動	B	・教育内容については基準が明確に定められているようなので、確実に進めて欲しい。 ・本年度はコロナの関係でいろいろと大変であったと思う。
基準4 教育成果	B	・資格取得率、就職率が100%であり、教育理念・目的が十分に達成された成果が現れている。

基準5 学生支援	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就職等に関しても個別の相談が行われており、成果にもつながっている。 ・就職後のケアの在り方も考えたい。
基準6 教育環境	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育所が同じ敷地内にあるという環境を最大限に活かしていきたい。 ・せっかくの施設なので、今後も有効に活用したい。
基準7 学生募集と受け入れ	/	※募集停止のため評価せず。
基準8 財務	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集停止の関係で収入減ということであるが、教育の質は保つことが大切である。
基準9 法令等の遵守	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種法令等に基づき、適正に進められていると思われる。
基準10 社会貢献	C	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は新型コロナウイルスの感染問題があり、やむをえない部分もあるが、地域社会との関わりはほとんど感じられなかった。
今後の課題について		<ul style="list-style-type: none"> ・残念なことであるが、令和3年度末をもって閉校ということであるので、最後の立派に卒業できるように頑張ってもらいたい。応援をしています。

3 今後の課題

基準1 教育理念・目的・育成人材像等	
1-2 学校の特色はなにか	職業実践専門課程の一層の充実を図るため、滝子幼稚園、たきこ幼児園等との連携を深め、より実践的な授業を導入する。
基準2 学校運営	
2-4 運営方針は定められているか	国や県の動向及び本校の置かれた状況を踏まえて、随時見直しを図りながら進めていく。
2-6 運営組織や意志決定機能は効率的なものになっているか。	運営組織図における校務分掌を遵守しながらも、各担当者に全てを任せるのではなく、常に全員が責任感をもって活動に当たっていく機運を一層高めていく。
基準3 教育活動	
3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	各授業のねらいに即した評価方法や基準等を明確にし、学生自身にも分かりやすく示していく。
3-17 資格取得の指導体制はあるか。	次年度末をもって閉校予定であるので、能力の低い学生や意欲の乏しい学生に対し、早期から個別指導などを行っていくことで、全員の資格取得を目指していく。
基準4 教育成果	

4-18 就職率（卒業生就職率・求職者就職率）の向上が図られているか。	公立・私立、県内・県外の異なる採用試験機関への就職指導体制をさらに整備するとともに、担当者が変わっても継続的な指導が進められるようにしていく。
基準5 学生支援	
5-29 卒業生への支援体制はあるか	フォローアップメニューを検討するとともに、同窓会組織を明確にし、活動の活性化を促す。本校の閉校により卒業生が困らないように、事務の引き継ぎを確実に行う。
基準6 教育環境	
6-31 学外学習について、十分な教育体制を整備しているか。	時々の社会情勢を踏まえ、学外学習に伴う互いの不安やリスクをできる限り抑える体制を整えるとともに、校外学習先の理解を得ながら臨むようにしていく。
基準7 学生の募集と受け入れ	
7-33 学生募集活動は、適正に行われているか	※令和2年4月より、新たな学生募集を行わないこととなった。
基準9 法令等の遵守	
9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・評価に際し法令遵守を念頭に置く。また、企画委員会や教師会の場で方針を確認し、評価項目を本校にあった内容に改めるとともに、問題点の改善は速やかに着手する。
基準10 社会貢献	
10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか。	次年度だけでなく、本校閉校後の在り方も見据えながら、地域の諸団体等との話し合いを進め、施設の有効な活用方法を模索していく。

※この学校評価結果報告書は、名古屋芸術大学保育専門学校ホームページにおいて情報公開している